

2021 年度協会賞審査結果について（通知）

私立大学図書館協会会長校 西南学院大学図書館
館長 古田 雅 憲
私立大学図書館協会協会賞審査委員会
委員長 木下 和彦
(慶應義塾大学信濃町メディアセンター)

2021 年度協会賞の推薦について、協会賞審査委員会(2021 年度第 2 回：2022 年 1 月 12 日開催)および東西合同役員会(2021 年度第 2 回：2022 年 3 月 4 日開催)において協議いたしましたところ、下記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

なお、協会賞の表彰は、2022 年 9 月開催の第 83 回総会・研究大会にて行われる予定です。

記

① 推薦の概要

実践女子大学・実践女子大学短期大学部図書館

・種 別 第 1 部（図書館・情報学の研究・調査業績）

（4）書誌・歴史部門

・被推薦者 伊藤 民雄

・業 績 データベース『図書館情報学文献目録』BIBLIS PLUS の構築と公開

② 審査結果

採 択

③ 理由（採否の理由、付帯意見など）

『図書館情報学文献目録 BIBLIS PLUS』は、2015年9月から公開停止となっていた日本図書館情報学会の『BIBLIS for Web ver 2.0（図書館情報学文献目録1991-2006）』のデータを再公開するとともに、収録範囲外の図書館情報学関連の論文・記事も調査し採録しているデータベースである。特に、これまでデータベースでの検索が困難であった明治期から戦前・戦中期の主要関係雑誌の創刊号からの記事情報を採録したことは注目に値する。

データベースのプラットフォームは本協会の研究助成金により構築されたものであるが、採録データの収集や利用許諾手続きなどに多大な手間をかけており、2022年1月現在の搭載データ件数は22万件を超え（重複データ含む）、直近一年間でも約3万5千件のデータが加えられている。母体となった「図書館情報学文献目録 1991-2006」のデータは約3万件とみられることから、当初の目的が『BIBLIS』の復活であったとしても現在は全く別のデータベースに成長しているといえることができる。

図書館員にとって文献を探すためのツールは無くしてはならないものであり、殊に足元の図書館情報学関連文献を探索するためのツールを整備したことの意義は大きいと考える。その意味で、大学図書館のみならず図書館関係者の調査研究におけるレファレンスツールとして有用で、資するところ大であり、広く図書館業界における貢献と認められる。

以上のことから、本件は、協会賞審査の申し合わせ事項における採択可否ポイントの（オ）（キ）に該当すると判断し、協会賞に採択する。

以上